

ホーム名：くみのき苑グループホーム千寿					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「認知症になっても、一人ひとりが地域の中で当たり前暮らしながら、人間の尊厳を大切に生きていく」を理念に掲げている。今年度の目標も「自分らしく生きてもらう。自分を好きになってもらう。」とし、どのようにしていくかを会議にて具体的に話し合い実践に取り組んでいる。	常に入居者一人一人の気持ちを尊重し笑顔で暮らせるように支援している。認知症高齢者に対する考え方、ケアのあり方における管理者の真摯な姿を見て職員は日々切磋琢磨している。	今後も入居者の笑顔を大切に、自分を好きになってもらうような支援を続けてもらいたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会に入り、地域行事に積極的に参加させて貰っている。また、入居者さまが参加できる行事の場合は、入居者さまと一緒に参加している。	自治会に加入している。行事に参加するだけでなく活動に積極的に貢献し、入居者と地域の住民の関係を親しみあるものになっている。地藏盆やだんじりなどの行事を入居者は楽しんでいる。散歩時に近所の方からの声かけも頂いている。	地域とのつながりは入居者の慣れ親しんだ暮らしや人とのつきあいの継続にも大きくかかわることであり、数年前からの地域への積極的な参加の努力は今後も継続が望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・河内長野市の認知症コーディネーターとして、河内長野市の認知症への理解を広げる活動にも参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議で出た意見は、会議後、各階の常勤と相談したり、法人本部の上司などとも相談し検討させて貰っている。要望で出来ない場合は、個人的に意見下さった方へ、返答の報告を入れている。	河内長野市役所職員、民生委員、地域包括、自治会役員、家族の参加を得ている。市からの助言で4ヶ月に一度の開催になっている。	事業所からの報告、出席者との間の質疑応答も盛り込まれ、毎回有意義な内容になっている。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	・何か事業所で分からない事や困った事は、すぐに市役所に連絡している。市役所の方々も、すぐに調べて返答を下さる。	運営推進会議にも毎回市職員の参加があり、月に一度のグループホーム部会においても意見交換がされている。介護相談員を受け入れており毎月2回の来苑の機会を得ている。	今後も市との連携は密にし、現状を伝え地域の認知症の高齢者をケアしている現場からの意見要望を発信されることを期待する。事業所の実情を伝えることで入居者も職員も出来るだけ気持ちよく生活できるような支援を市には期待したい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	会議にて取り上げ、身体拘束しないケアに取り組んでいる。ホーム内ではエレベーターで自由に行き来出来る。入居者の安全を図る為に無線センサーを使用（個人購入・1名利用）、布団に鈴を付ける（2名）をし、身体拘束の無い支援を行っている。	身体拘束については、倫理規定、虐待、感染症等と共に研修が行われている。月に2回のユニット会議でも具体的に拘束について話をしている。グループホームの支援として、根本的に拘束を行うことはありえないという考えで管理者をはじめ職員は日々支援している。	入居者の皆さんの表情から日常的に尊厳が守られて生活されていることが推察される。認知症についての知識を基にして、される側の気持ちになって考える支援を今後も期待する。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全体職員会議にて取り上げ、学んでいる。資料や新聞等の記事や情報が有れば、回覧し掲示している。現場の職員の対応はその場で常勤から職員一人ひとりに説明する。又、ユニット会議にて話し合い、説明を行っている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>常勤は全体職員会議にて取り上げ学んでいる。資料は回覧し職員が周知するようにしている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・今まであった家族様からの疑問や不安を聞いた事を踏まえて、説明する様に努めている。ただし、細かく説明し過ぎて、逆に家族様に伝える量が多く、理解しにくくさせている事もあるのではと思う。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・各階意見箱を設置している。利用者・家族様からの意見や要望を全員で周知出来る様に、各階の常勤に伝え、どうしていくか話し合い取り組む様に努めている。</p>	<p>意見箱はあるが家族からの意見や要望は会話の中で聞かれることが多いので家族が面会しやすい雰囲気大切にしている。職員は家族に対しても挨拶をきっちり行い、会話の中で今何が一番困っているのかを見逃さないよう心がけている。</p>	<p>家族との会話の中で行き違いないように「家族ノート」に大切なやり取りを残している。入居者だけでなく、家族をも不安にさせないように誠意を持って対応している。基本年に3回グループホーム便りを送り写真付きで行事や日常の入居者の様子をお知らせしている。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>・半年に1回人事評価面接実施している。その際に、評価以外に職員の話す時間を取っている。また、職員の様子が違う時や周りの職員からの情報を聞いた際は、個人的に、話を持つ様にしている。</p>	<p>3ユニットごとに副主任をリーダーとしてそれぞれの支援に対する考え方や方法を任されている。月に2回のスタッフ会議では常勤職員にまんべんなく意見を言えるように管理者は気を配っており、徐々に自信を付けている職員も見られる。</p>	<p>ユニットごとの特色を大切に、それぞれの副主任がリーダーシップを発揮し、職員の意見や提案を管理者に伝え、これからも職員のコミュニケーションを大事にしていかれることを期待する。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>・今年度人事評価制度が新しくなり、労働時間、常勤、非常勤など小分けに評価項目が分けられる様になり、それぞれに合った評価水準になったので、目標を持って仕事に取り組みやすくなった。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・法人本部で定期的に研修を開催しているが、職員数が少ない時などがあり、毎回参加するのは難しい現状がある。その為、勉強資料の配布を行ったり、ユニット会議にて行っている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>・市のネットワーク会議や他施設の行事などにも、積極的に参加させて貰っている。また、毎月1回法人本部のグループホームとの会議の場を作り、意見交換ができる環境がある。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご入居前に本人様に見学に来て頂く機会を作っている。入所後も本人様の不安を軽減する為にゆっくりと関わる時間を作るよう対応している。又、安心した関係作りが出来る様に努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前の施設見学や入所されてからも、本人様や家族様が困っておられる事や心配事、ご希望等をお伺いし、お互いに話し合いの場を作るように努めている。又、家族様には本人様の様子を定期的に電話にてお話させて頂いている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人様やご家族様からの情報は個人別センター方式に記入しまとめている。職員は情報共有し、対応に活かせるように努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者様其々の所持能力を見極め、こちらからの一方的な介護、援助にならない様に心掛けている。しかし、職員の都合により一方的になっている事もあり、現場や会議にて話をし、入居者様の為の援助が出来る様指導している。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>本人様やご家族様の気持ちを大切に、職員は想いを汲み取り対応出来る様努めている。面会時には日常の様子や状況を報告し、安心して頂いている。又、家族会や遠足等一緒に過ごせる機会を作っている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人様やご家族様より情報収集し、手紙や年賀状等で疎遠にならないよう支援している。毎月、知り合いの方の面会が有る方も居られる。</p>	<p>馴染みの美容院に行ったり自宅に帰ったり墓参りに行くなど、希望に合わせて関係の継続を支援しているが介護度の低下に伴い回数が減っている。</p>	<p>認知症の人が抱える記憶の混乱や不安を少しでも理解し、馴染みの場所や人やものとの関係性の継続に今後も力を貸していただきたい。混乱の中で自分の症状と折り合いをつけ生活していく上で馴染みの職員の笑顔は大きな力を持っているものとする。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者様同士の関係は理解出来ているが、職員が事前に対応出来ない事でトラブルになる事が有る。職員の対応が事前出来る様努めていきたい。又、一緒に食事作りをすることにより関わりや支え合う関係性が出来る様努めている所である。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所された方に、面会やお見舞いを通じて、関係性を大事にしている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との日々の関わりの中で、訴えや希望を理解できるように努めている。しかし、職員の対応も十分でない為、思いや希望の把握がしきれていない事もある。	管理者は、認知症ケア専門士の資格も持ち、入居者の尊厳を支えることの大切さを職員にも指導している。	会話や行動の中からその人の本当の希望や不安を汲み取り、職員同士その情報を共有して温かい支援の継続を期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ご家族様や本人様から情報をお伺いし、個別のセンター方式に記入している。職員間の情報共有に使用し、日々の関わりに活かして行く様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の状況、様子を毎日の日誌に記入し職員間で情報共有している。しかし、職員の観察能力の違いはあり、現場での申し送り等で補っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様やご家族様の希望を伺い、月二回カンファレンスを実施。職員は、その情報を基に会議にて話し合い介護計画の作成をしている。本人様の状況に応じて見直しを行っている。	本人や家族が一番安心して穏やかにいられるために出来ることは何か、何を困っているかを、その立場に立って考え、話し合い介護計画を立てている。短期目標は3ヶ月、長期は半年とし随時見直ししている。	前回の計画を基にその評価と検討を行い、職員で意見を出し合い、解決すべき課題、本人が困っていることは何かを分析し、具体的な計画、内容、期間を決め次の評価につなげている事がケアカンファレンス記録から読み取れる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の個別ケース記録は、毎日実施しているが、職員によっての気づきや工夫について差が見られる。日々の関わり方や視点等説明し記録できるように指導していく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当法人内の行事や他施設からの行事に可能な限り参加している。入居者様のニーズに沿った支援が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の協力もあり、地藏盆祭りや秋祭り等参加させて頂いている。又、施設周辺の溝掃除等にも参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前にご家族様に説明し、本人様や家族様の希望を踏まえ訪問診療かかりつけ医を青山クリニックとしている。以外で外部受診は近隣で病院の指定がなければ職員が送迎し付き添っている。	かかりつけ医と歯科医の往診は、入居者それぞれの希望に副って行われている。認知症専門医（精神科）による受診は月2回、全員が受けている。その他、外部受診も職員の付き添いで支援がなされている。	受診時には個人別ファイル「受診マニュアル」を持参し、伝え漏れ・記入漏れ・家族への連絡漏れが無い様に徹底している。また、デイの看護師による毎日の「医務日誌」への記入で入居者の健康状態が記録され、診断に役立っている。適切な医療を受けられる支援を継続されたい。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護師は月～土まで1階デイにて常時居る為、日々の入居者様の状態や変化を報告し、相談や指示を仰ぎ、支援している。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院中は家族様や病院関係者から情報提供して頂き、本人様の様子や状態把握に努め、支援出来る様にしている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居者様のADLの低下や日々の体調、状況の変化について、ご家族様の面会時や電話にて報告を行っている。重度化については、家族様との話し合いの中で決めて取り組んでいる。終末期ケアについて、職員が十分理解できていない事もあり職員間の話し合いや指導が必要である。</p>	<p>ADLが落ちてきた段階で、流れの中で方針を聞いている。延命治療の有無等は、重度化した段階で家族とかかりつけ医と話し合っている。「看取りに関する指針」が策定されており過去1名の看取りがなされているが、現在の職員は消極的である。ホームでの看取りを希望する家族は数名おられる。</p>	<p>グループホームが“終の住み処”として暮らせる場である事は入居者の安心をかう。ホームで家族同様過ごしてきた入居者が安心して終末期を過ごせる支援に期待したい。入居者の心に叶った支援がなされるよう、職員の今後の取り組みに期待する。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急対策マニュアルを設置し職員全員に周知している。会議や個別に説明しているが、職員により実践できる力に差がある現状である。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の方の協力のもと、年2回消防訓練を実施している。訓練時に避難方法を再確認し、消火器訓練を実施している。</p>	<p>直近の訓練（H26.12.5）では、1階デイサービス ボイラーを火元とし、通報・伝達・入居者をスタッフ室に誘導・人数確認という一連の流れを行った。災害備蓄品は本部備蓄庫で一括保管。ホームでは飲料水・缶詰・包装米飯を備蓄。災害に対する家族の関心は高い（運営推進会議時の質問から）。</p>	<p>突然の災害に対して慌てる事がないよう、全職員が常日頃から避難・誘導の仕方を身に付けておかれたい。夜間や地震時を想定しての訓練についても実施されたい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格の尊厳やプライバシーについて、職員一人ひとり現場にて説明を行っている。しかし、理解しようとしているも、まだ配慮に欠けた対応も見られる事もある。	職員は本部での「コミュニケーション研修」や「認知症研修」を学んでいる。場合によっては配慮に欠けた言葉遣いや対応をしてしまう時が見られる。	本部での研修を実際に活かし、年長者として敬う姿勢を心に留めて対応に心掛けて頂きたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の自己決定や自己選択して頂ける対応や声掛けの大切さは理解しているが、職員の都合により対応している事が多く見られる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で動いている事や、業務優先で動いている事が見られ入居者様の希望に沿った支援が出来ていない。業務改善を実施し入居者様と関わる時間を多く持てる様に努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の静養や更衣時にその方に合った身だしなみやおしゃれを支援させて頂くも、職員により決めつけや片寄りが見られる事もある。その都度職員と話をする。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りを通して入居者様同士関係性が持てるようにする事を2階の目標としている。皆で一緒に共同作業出来る様に努めているが、こちらの都合で動いている事も多くあり、職員がし過ぎない様に話し合っている。	各ユニット、献立作成が負担となっていた事から、3ユニット間月交代でメニューの作成とに任せている。季節食や外出時での外食、またバイキング外食等も企画し、食の楽しさを提供している。	食事を共に作る事で、刺激や喜び、また自信につなげられる様支援している。職員は食事作りの目的に副った支援になる様に、気配り・目配りで入居者の持てる力を導いていって欲しい。日課として、嚥下体操やリハビリ体操に取り組みたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	入居者様個人のケース記録や申し送りにて食事量や水分量を把握を行っている。その方の状態に合わせてミキサー食やとろみをつけ支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの誘導、声掛けの支援に努めている。又、毎週水曜日に訪問歯科があり、口腔ケア、治療、アドバイスを頂き清潔保持援助に努める。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	入居者様一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々に合った排泄方法、声掛けやトイレへの案内、支援に努めている。	個々の排泄パターンを把握し、声かけやきっかけを作る事でトイレでの排泄が出来るよう支援している。職員の排泄（支援）に対しての理解を深める為にユニット会議で提議している。	自立しておられる方も数名おられる。トイレでの排泄が続くよう体操や運動にも力を入れながら、自立に向けた支援を継続されたい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響についてのメカニズムについて理解出来ている職員が少なく、食事のバランスや適度な運動量の確保に結びつかない職員も居り、指導に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者様の体調に合わせて、入浴間隔の開いた方を優先に声を掛けさせて頂いている。その時の状況や入居者様の希望があれば優先出来る様に努めている。	怪我や傷、内出血などが無いかな全身をよく観察しながら、週2回以上の入浴を支援している。時間は入居者に合わせ、無理強いはせず声を掛けている。シャンプー・リンスは各自で好みの品を用意している。	それぞれの入浴の仕方を尊重しながら、1対1で触れ合える貴重な時間とされたい。毎回の湯の入れ換え・洗浄が望ましいが、今後も衛生に気を配り、楽しい入浴となる様支援されたい。

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状態や様子に応じて対応を行っているも、リビングでの傾眠時にベッドへの声掛けが少ない現状である。その都度、現場にて指導を行っている。		
47	○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様個人の薬説明書や薬管理袋の中に個人手書き説明書を入れ確認出来る様にしている。しかし、確認、理解出来ない職員もいる。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意な事、楽しみ等出来る範囲の役割分担等見つけ、支援しているが、時間が作れない時など、職員の一方的な押し付けになっている事もある。		
49 18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散髪や買物等本人様の希望があれば、外出できる様に対応している。又、家族様が外出希望される事もあり、外出時の注意点を伝え、安心して外出出来る様に支援していく。	職員が少なく、日常的な散歩は出来ない状態である。買い物外出や季節の中・遠出、本部での催しなど、楽しみ外出は頻繁に行われている。	職員数の関係から日常的な散歩が出来ないのは残念である。外に出て外気に触れるだけでも刺激になる。晴れの日・雨の日・雪の日…直に肌で感じ取ることの支援に期待したい。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にご家族様、本人様へ説明させて頂き、金銭の所持は自己管理でのご理解を頂いている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族様の希望を聞き、電話や手紙のやり取りが可能な方に対して、本人様の希望通りに実施できるよう努めている。		
52 19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下等に季節に応じた飾りを作成し飾っている。又、日常の様子や行事の写真を掲示させて頂いている。リビングテーブルに季節の花を入居者様に生けて頂き季節を感じて頂いている。	2階・3階・4階ともユニットの個性を活かした趣で、共用空間作りがなされている。季節の飾り付けを心掛けており、4階和室では職員の寄贈による雛壇が飾られ、目を楽しませている。掃除は専門職を外注し、エアコンのフィルターは職員が定期的に掃除を行っている。	和室に上がれる人が少なくなってきたとの事であるが、見て落ち着く和室の設えも大切と考える。（古い）家具や棚を置いたり、こたつを置いて足を温めたりと、一般家庭と同じような温もりのある部屋作りを考えてみたい。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベンチを置くことによりゆっくりと過ごせるスペースを確保している。		
54 20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前の入居者様が使用されて居た家具など、居室に持参して頂けるものがあれば居室に置いている。又、入所後も個人様の思い出の写真や馴染みの物を家族様に相談し持って来て頂く。	それぞれ馴染みのある物品の持ち込みで、各居室、生活感のある部屋作りとなっている。天気の良い日の布団干しや定期的なシーツの替えなど、衛生にも気を配られている。	状態に合わせて、ベッドではなく床敷きの方もおられる。居心地の良い居室作りを今後も支援されたい。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境作りを意識し過ぎ、職員が過剰にしている事が見られる。入居者様が出来るような事を取り上げている事もあり、見守りや支援方法を会議等で話し合い指導に努めている。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない